

11/6

Wed

学 校 型 長野市立松代小学校

共同研究者 岩川直樹
(埼玉大学 教授)

「対話」「寄り添い」をとoshた、 主体的・協働的な学びの実現

1学期には、インタビュー活動を進めてきました。松代にやってくる様々な観光客の方と「対話」してきました。インタビューした観光客の言葉で「長野県の中で〇〇の次に来るところが松代である」というイメージが多いことを感じ、「長野といえば松代」になってほしいという願いを持ち始めました。そこからパンフレットづくりをして松代の魅力をPRしたいという「問い」が生まれてきています。そのために、松代のことを調べ、自分たちがつくりあげたいものに向かって情報や材料を集めています。

教師は、これから子どもたちが活動していく中で立ち止まって停滞したときに子どもたちと「対話」を重ね、どう「寄り添う」ことができるか考えているところです。また、子どもたちが自分たちや観光客の方の思いに「寄り添い」合って活動していくのかを見取っていきたいと思います。教師が、観光客だけでなく、観光協会や地域でボランティア活動をしている方などと子どもたちをつなげて、地域の方が持っている思いにも「寄り添う」ことで、自分たちの思いと重ねてパンフレットに表現していく姿を目指しています。

2学期に入り、子どもたちがいくつかのチームに分かれてパンフレットを作り始めました。今は、「自分たちがインターネットで調べて出てきた情報をもとにパンフレットをつくらしている」段階です。これから活動を進めていく中で、自分たちの伝えたいことや伝えたい内容・相手がだんだん明確になっていくと考えています。そこに向かってパンフレットを見せながら、地域の方や観光客とのインタビュー「対話」を重ねていけたらと考えています。自分たちが松代に「寄り添う」ことで子どもたちが「自分たちにしか作ることのできないパンフレット」をつくり上げていけたらよいと願っています。そして、最後には「松代はやはりよいところだ、こんな素敵な魅力がある地域なんだ」と自分たちの住んでいる地域の魅力を再発見してくれることを目指して授業づくりを進めています。



共同研究者 岩川先生から

「インタビュー」とは「inter（あいだ）」で「view（見ること）」。同じ主題を自分の目だけではなく、他者の目とおして見るなかで、互いの思いがふれあい共になにかを分かち合ってゆくとともに、松代に訪れる人々と松代に住む人たちの双方にインタビューを重ねるなかで、子どもたちがどんなふれあいと分かち合いを生み出してゆくのかを見つめたい。



～日 程～

- | | |
|---------|-------------|
| ① 受付 | 13:00～13:15 |
| ② 開会行事 | 13:20～13:40 |
| ③ 公開授業 | 13:45～14:30 |
| ④ 授業研究会 | 14:40～15:20 |
| ⑤ 講演会 | 15:25～16:25 |
| ⑥ 閉会行事 | 16:30～16:40 |